



Cisco UCS B シリーズでの問題のトラブルシューティング

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS Manager の初期設定のトラブルシューティング](#), 1 ページ
- [ブートの問題のトラブルシューティング](#), 3 ページ
- [KVM の問題のトラブルシューティング](#), 5 ページ
- [VM の問題のトラブルシューティング](#), 6 ページ
- [Cisco UCS Manager の問題のトラブルシューティング](#), 7 ページ
- [ファブリック インターコネクトの問題のトラブルシューティング](#), 9 ページ
- [サーバのディスク ドライブの検出およびモニタリングのトラブルシューティング](#), 10 ページ
- [Post-Upgrade IQN の問題のトラブルシューティング](#), 15 ページ

Cisco UCS Manager の初期設定のトラブルシューティング

コンソール設定の確認

両方のファブリック インターコネクトの設定が確実に行われていることを確認するために、SSH を使用してファブリック インターコネクトにログインしたり、CLI を使用してクラスタの状態を確認したりすることができます。この手順については、「[Cisco UCS Manager Initial Setup part 3](#)」をご覧ください。

クラスタの状態を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的	出力の例
show cluster state	ハイ アベイラビリティ クラスターの両方のファブリック インターコネクタの動作状態およびリーダーシップ ロールを表示します。	次の例の表示では、両方のファブリック インターコネクタが Up 状態、HA が Ready 状態、ファブリック インターコネクタ A がプライマリ ロール、ファブリック インターコネクタ B が従属ロールです。 UCS-A# show cluster state Cluster Id: 0x4432f72a371511de-0xb97c000de1b1ada4 A: UP, PRIMARY B: UP, SUBORDINATE HA READY
show cluster extended-state	クラスタの状態を詳細に表示します。通常は問題をトラブルシューティングする場合に使用します。	次に、クラスタの状態を詳細に表示する例を示します。 UCSC# show cluster extended-state 0x2e95eaccd0f11e2-0x8ff35147e84f3de2Start time: Thu May 16 06:54:22 2013Last election time: Thu May 16 16:29:28 2015System Management Viewing the Cluster State A: UP, PRIMARY B: UP, SUBORDINATE A: memb state UP, lead state PRIMARY, mgmt services state: UP B: memb state UP, lead state SUBORDINATE, mgmt services state: UP heartbeat state PRIMARY_OK HA READY Detailed state of the device selected for HA quorum data: Device 1007, serial: a66b4c20-8692-11df-bd63-1b72ef3ac801, state: active Device 1010, serial: 00e3e6d0-8693-11df-9e10-0f4428357744, state: active Device 1012, serial: 1d8922c8-8693-11df-9133-89fa154e3fa1, state: active

ブートの問題のトラブルシューティング

リポート警告が表示されない

問題：依存関係をリストするリポート警告の生成に失敗します。

考えられる原因：この問題は、vNICテンプレートまたはvHBAテンプレートへの変更が原因で発生する可能性があります。リポート警告は、バックエンドが依存関係のリストを返すときに発生します。vNICまたはvHBAテンプレートのテンプレートタイプをアップデートし、ステップ間の変更を適用せずにブート関連プロパティを変更すると、依存関係のリストを返すバックエンドシステムが起動されません。

手順

-
- ステップ1 Cisco UCS Manager GUI を起動します。
 - ステップ2 サービス プロファイルに含まれる vNIC テンプレートまたは vHBA テンプレートで、次の手順を実行します。
 - a) テンプレート タイプを [Initial Template] から [Updating Template] に変更します。
 - b) [Save Changes] をクリックします。
 - ステップ3 リポート関連値に追加の変更を加えて、[Save Changes] をクリックします。リポート警告および依存関係のリストが表示されます。
-

eUSB にインストールされている OS からサーバがブートしない

問題：Cisco UCS サーバ内に組み込みの eUSB にはオペレーティングシステムが含まれています。けれども、サーバがそのオペレーティングシステムからブートしません。

考えられる原因：この問題は、サーバをサービス プロファイルに関連付けた後、eUSB がサーバの実際のブート順序の 1 番目になっていない場合に発生する可能性があります。

手順

-
- ステップ1 Cisco UCS Manager GUI を起動します。
 - ステップ2 [サーバ (Servers)] で次の手順を実行して、ブート ポリシー設定を確認します。
 - a) サーバに関連付けられているサービス プロファイルに移動します。
 - b) [Work] ペインで [Boot Order] タブをクリックします。
 - c) [Local Disk] がブート ポリシーの 1 番目のデバイスとして設定されていることを確認します。
 - ステップ3 [設備 (Equipment)] で次の手順を実行して、サーバの実際のブート順序を確認します。

- a) サーバに移動します。
- b) [General]タブで [Boot Order Details] 領域を展開し、[Actual Boot Order] タブで eUSB が 1 番目のデバイスとしてリストされていることを確認します。
たとえば、1 番目のデバイスが [VM eUSB DISK]になっている必要があります。

ステップ 4 eUSB が実際のブート順序の 1 番目のデバイスでない場合は、次の手順を実行します。

- a) サーバの [General]タブで、[Actions] 領域の次のリンクをクリックします。
 - [KVM Console]をクリックし、KVM コンソールを起動します。
 - [Boot Server]をクリックし、サーバをブートします。
- b) KVM コンソールで、サーバがブートしている間に F2を押して、BIOS 設定を開始します。
- c) BIOS ユーティリティで、[Boot Options]タブをクリックします。
- d) [Hard Disk Order]をクリックします。
- e) [Boot Option #1]を eUSB に設定します。
たとえば、このオプションを [VM eUSB DISK]に設定します。
- f) F10を押して、設定を保存し、終了します。

RAID1 クラスタの移行後にサーバがブートしない

問題： RAID1 クラスタの移行後に、サーバがオペレーティング システムからブートしません。RAID LUN は、サービス プロファイルのアソシエーション中もアソシエーション後も、「非アクティブ」状態のままになります。その結果、サーバは起動できなくなります。

考えられる問題： この問題は、サーバ上のサービス プロファイルのローカル ディスク設定ポリシーが、RAID1 ではなく [Any Configuration]モードで設定されていることが原因で発生する可能性があります。

手順

ステップ 1 Cisco UCS Manager GUIで、[サーバ (Servers)] をクリックします。

ステップ 2 サーバに関連付けられているサービス プロファイルに移動し、[Storage]タブをクリックします。

ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- 次のように、移行する前に、サービス プロファイルに含まれているローカル ディスク設定ポリシーを、サーバに関連付けられているサービス プロファイルのローカル ディスク設定ポリシーと同じポリシーに変更します。
 - [Actions]領域で、[Change Local Disk Configuration Policy] をクリックします。
 - [Select the Local Disk Configuration Policy] ドロップダウン リストから、適切なポリシーを選択します。

- [OK] をクリックします。
- サービス プロファイルに含まれているローカル ディスク設定ポリシーのモード プロパティを、次のように変更します。
 - [Storage] タブの [Local Disk Configuration Policy] 領域で、[Local Disk Policy Instance] フィールド内のリンクをクリックします。
 - [Mode] フィールドで、[Raid 1 Mirrored] オプションが選択されていることを確認します。
 - [Save Changes] をクリックします。

KVM の問題のトラブルシューティング

KVM ビューアの起動時の BadFieldException

問題：KVM ビューアを起動するとき、BadFieldException エラーが発生します。

考えられる原因：ネイティブ ライブラリを使用するアプリケーションと共に Java Web Start を使用すると、デフォルトでキャッシュがディセーブルになることによって、この問題が発生することがあります。

手順

- ステップ 1 [Start] > [Control Panel] > [Java] を選択します。
- ステップ 2 [General] タブをクリックします。
- ステップ 3 [Temporary Internet Files] 領域で、[Settings] をクリックします。
- ステップ 4 [Keep temporary files on my computer] チェックボックスをクリックします。
- ステップ 5 [OK] をクリックします。

KVM コンソールの障害

問題：KVM コンソールが起動に失敗し、JRE によって次のメッセージが表示されます。

```
Unable to launch the application.
```

考えられる原因：この問題は、複数の KVM コンソールが同時に起動された場合に発生する可能性があります。

手順

-
- ステップ 1** 可能な場合には、開いているすべての KVM コンソールを閉じます。
- ステップ 2** KVM コンソールを一度に 1 つずつ再起動します。
-

KVM を開けない

問題：初めてサーバで KVM を開こうとすると、KVM が起動に失敗します。

考えられる原因：この問題は、JRE バージョンの非互換性が原因で発生する可能性があります。

手順

-
- ステップ 1** JRE 1.6_11 にアップグレードします。
- ステップ 2** サーバをリブートします。
- ステップ 3** KVM コンソールを起動します。
-

VM の問題のトラブルシューティング

分散仮想スイッチでポートを使用できない

問題：次のエラーが表示されます。

```
Currently connected network interface x uses Distributed Virtual Switch (uusid:y) which is
accessed on the host via a switch that has no free ports.
```

考えられる原因：この問題は、次のいずれかが原因で発生する可能性があります。

- VM の電源をオフにした後、またはあるホストから別のホストに VM を移行した後、vSphere サーバが hostProxySwitch オブジェクトの numPortsAvailable プロパティの再計算に失敗しています。
- ESX ホスト上で電源がオンになっている VM の vNIC の累積数が、サーバのサービス プロファイルに設定されている動的 nVINC の数と一致しているかまたは上回っています。
- あるデータストアから同じサーバ上の別のデータストアに VM を移行した後、ホスト上で電源がオンになっているすべての VM で使用されている DVS ポート数の増加が、サーバによって誤って検出されています。

手順

-
- ステップ 1** エラーが表示されていたときに実行していた操作を特定します。
- ステップ 2** エラーが、VM の電源をオフにしたことで発生したか、またはあるホストから別のホストに VM を移行したことで発生した場合は、次の手順を実行します。
- 2 番目の VM を ESX ホストから別のシステムに移行します。
 - 2 番目のポートが使用可能になった後、次のいずれかを実行します。
 - VM の電源をオンにします。
 - VM を ESX ホストに再び移行します。
- ステップ 3** エラーが、あるデータストアから同じサーバ上の別のデータストアに VM インスタンスを移行したことで発生した場合は、次の手順を実行します。
- ESX ホスト上のすべての VM をシャットダウンします。
 - 移行を再試行します。
-

Cisco UCS Manager の問題のトラブルシューティング

DME プロセスがタイムアウト

問題：Cisco UCS Manager CLI コマンドを実行すると、Cisco UCS Manager CLI に次のメッセージが表示されます。

Software Error: Exception during execution: [Error: Timed out communicating with DME]

理由：この問題は、プライマリ ファブリック インターコネクットの DME プロセスが応答しないか、クラッシュして実行状態にない場合に発生します。DME がダウンした場合に発生する他の症状は次のとおりです。

- Cisco UCS Manager GUI が応答しない
- 仮想 IP の接続がダウンする

手順

-
- ステップ 1** システムがこの状態に至るまでの一連のイベントについての情報を収集します（Cisco UCS Manager のアップグレードや設定の変更など）。
- ステップ 2** 個々の IP アドレスを使用して、各ファブリック インターコネクットに接続し、次のコマンドを使用して、クラスタ ステータス、プロセスおよびコアのダンプを確認します。
- UCS-A# **connect local-mgmt**

クラスタのローカル管理モードを開始します。

- b) UCS-A (local-mgmt) # **show cluster extended-state**
クラスタ内のファブリック インターコネクトの状態と、クラスタが HA レディであるかどうかを表示します。
- c) UCS-A(local-mgmt)# **show pmon state**
Cisco UCS Manager内のすべてのプロセスのステータスを表示します。
- d) UCS-A(local-mgmt)# **ls workspace:/cores**
ワークスペースのすべてのコア ダンプの一覧が表示されます。

ステップ 3 プライマリ ファブリック インターコネクトを特定し、さらに HA の選択が不完全であるかどうかを確認します。

ステップ 4 次のコマンドを使用して、NXOS のログでファブリック インターコネクトのハードウェアの問題を確認します。

- a) UCS-A# **connect nxos {a | b}**
ファブリック インターコネクトの NX-OS モードを開始します。
- b) UCS-A(nxos)# **show logg**
ログ ファイルの詳細を表示します。

ステップ 5 次のコマンドを使用して、local-mgmt CLI から Cisco UCS Managerのテクニカル サポート情報を収集します。

- a) UCS-A# **connect local-mgmt**
クラスタのローカル管理モードを開始します。
- b) UCS-A(local-mgmt)# **show tech-support ucsman detail**
Cisco UCS Managerのテクニカル サポート情報が表示されます。

次の作業

障害の詳細について調査するには、これらのログと情報を収集して TAC にお問い合わせください。

イベントのシーケンス処理で致命的なエラー

問題：スリープ モードから復帰した後、Cisco UCS Manager GUI によって次のメッセージが表示されます。

Fatal error: event sequencing is skewed.

考えられる原因：この問題は、コンピュータがスリープ状態に入るときに Cisco UCS Manager GUI が実行中だった場合に発生する可能性があります。JRE にはスリープ検出メカニズムがないため、システムでは、スリープ モードに入る前に受信したすべてのメッセージを再追跡することはできません。複数回再試行した後、このイベント シーケンス エラーがログに記録されます。



(注) コンピュータをスリープにするときは、必ず Cisco UCS Manager GUI をシャットダウンします。

手順

Cisco UCS Manager GUI で、[Connection Error]ダイアログボックスが表示された場合は、次のいずれかをクリックします。

- [Re-login]をクリックし、Cisco UCS Manager GUI に再度ログインします。
- [Exit]をクリックし、Cisco UCS Manager GUI を終了します。

ファブリック インターコネクトの問題のトラブルシューティング

ブート ロード プロンプトからのファブリック インターコネクトの回復

ファブリック インターコネクトの起動に失敗した場合は、次のいずれかの問題が発生している可能性があります。

- キックスタート イメージが破損しているか、その他の理由で機能していない
- ブートフラッシュ メモリのファイル システムが破損している

これらの問題のいずれかが存在する場合、ブートローダプロンプトを使用して、ファブリック インターコネクトを回復することが必要になる場合があります。

手順

Cisco Technical Assistance Centerに問い合わせして、ファームウェア リカバリ イメージと、ブートローダ プロンプトからファブリック インターコネクトを回復する方法の情報を取得します。

ファブリック インターコネクトのクラスタ ID 不一致の解決

問題：ハイアベイラビリティ クラスタをサポートするように2つのファブリック インターコネクトを設定してL1 ポートとL2 ポートを接続した場合に、ファブリック インターコネクトのクラスタ ID で不一致が発生する可能性があります。このタイプの不一致は、クラスタで障害が発生したために、Cisco UCS Manager を初期化できないことを意味します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco UCS Manager CLI で、ファブリック インターコネク ト B に接続して **erase configuration** を実行します。
ファブリック インターコネク ト上のすべての設定が消去されます。
- ステップ 2** ファブリック インターコネク ト B をリブートします。
リブート後、ファブリック インターコネク ト B はファブリック インターコネク ト A のプレゼン スを検出し、ファブリック インターコネク ト A からクラスタ ID をダウンロードします。クラスタの設定で従属ファブリック インターコネク トを設定する必要があります。
- ステップ 3** 設定されていないシステムがブートすると、使用する設定方法の入力を要求するプロンプトが表示されます。 **console** と入力して、コンソール CLI を使用した初期設定を続行します。
(注) ファブリック インターコネク トによって、クラスタ内のピア ファブリック インターコネク トが検出されます。検出されなかった場合は、L1 ポートと L2 ポート間の物理接続を調べ、ピア ファブリック インターコネク トがクラスタ設定でイネーブルになっていることを確認します。
- ステップ 4** **y** と入力して、従属ファブリック インターコネク トをクラスタに追加します。
- ステップ 5** ピア ファブリック インターコネク トの管理パスワードを入力します。
- ステップ 6** 従属ファブリック インターコネク ト上の管理ポートの IP アドレスを入力します。
- ステップ 7** 設定の要約を確認し、 **yes** と入力して設定を保存および適用するか、 **no** と入力して設定ウィザードを再びやり直し、設定を一部変更します。
設定ウィザードのやり直しを選択した場合は、以前に入力した値が角カッコで囲まれて表示されます。以前に入力した値をそのまま使用する場合は、 **Enter** を押します。
-

サーバのディスクドライブの検出およびモニタリングの トラブルシューティング

ローカルストレージモニタリングのサポート

サポートされるモニタリングのタイプは、Cisco UCSサーバによって異なります。

ローカルストレージモニタリングについてサポートされる Cisco UCSサーバ

Cisco UCS Managerを使用して、次のサーバについてローカルストレージコンポーネントをモニタできます。

- Cisco UCSB200 M3 ブレードサーバ
- Cisco UCSB420 M3 ブレードサーバ

- Cisco UCSB22 M3 ブレード サーバ
- Cisco UCSB200 M4 ブレード サーバ
- Cisco UCSB260 M4 ブレード サーバ
- Cisco UCSB460 M4 ブレード サーバ
- Cisco UCSC460 M2 ラック サーバ
- Cisco UCSC420 M3 ラック サーバ
- Cisco UCSC260 M2 ラック サーバ
- Cisco UCSC240 M3 ラック サーバ
- Cisco UCSC220 M3 ラック サーバ
- Cisco UCSC24 M3 ラック サーバ
- Cisco UCSC22 M3 ラック サーバ
- Cisco UCSC220 M4 ラック サーバ
- Cisco UCSC240 M4 ラック サーバ
- Cisco UCSC460 M4 ラック サーバ



(注) すべてのサーバがすべてのローカルストレージコンポーネントをサポートするわけではありません。Cisco UCSラックサーバの場合は、マザーボードに組み込まれたオンボード SATA RAID 0/1 コントローラはサポートされません。

レガシー ディスク ドライブのモニタリングについてサポートされる Cisco UCSサーバ

レガシーディスクドライブモニタリングのみが、次のサーバでCisco UCS Managerを介しサポートされます。

- Cisco UCSB200 M1/M2 ブレード サーバ
- Cisco UCSB250 M1/M2 ブレード サーバ



(注) Cisco UCS Managerがディスクドライブをモニタするには、1064Eストレージコントローラは、パッケージバージョンが2.0(1)以上のUCSバンドルに含まれるファームウェアレベルが必要です。

ローカルストレージモニタリングの前提条件

これらの前提条件は、有益なステータス情報を提供するため行われるローカルストレージモニタリングやレガシー ディスク ドライブ モニタリングの際に満たす必要があります。

- ドライブがサーバ ドライブ ベイに挿入されている必要があります。
- サーバの電源が投入されている。
- サーバが検出を完了している。
- BIOS POST の完了結果が正常である。

ディスク ドライブのステータスの確認

Cisco UCS Manager GUI でのローカルストレージコンポーネントのステータスの表示

手順

-
- ステップ 1 [Navigation]ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
 - ステップ 3 ローカルストレージコンポーネントのステータスを表示するサーバをクリックします。
 - ステップ 4 [Work]ペインの [Inventory] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Storage]サブタブをクリックして、RAID コントローラと FlexFlash コントローラのステータスを表示します。
 - ステップ 6 下矢印をクリックして[Local Disk Configuration Policy]、[Actual Disk Configurations]、[Disks]、[Firmware] バーの順に展開し、追加のステータス情報を表示します。
-

監視対象ディスク ドライブのステータスの解釈

Cisco UCS Managerでは、モニタリング対象のディスク ドライブごとに次のプロパティが表示されます。

- [Operability] : ドライブの動作状態。
- [Presence] : ディスク ドライブのプレゼンス（サーバ ドライブ ベイ内で検出されるかどうかであり、動作状態は関係ない）。

監視対象のディスク ドライブのステータスを判断するには、両方のプロパティを確認する必要があります。次の表に、これらプロパティ値の組み合わせの一般的な解釈を示します。

[Operability]のステータス	Presence Status	解釈
Operable	Equipped	障害が発生していない状態。ディスクドライブは、サーバ内に存在し、使用できます。
Inoperable	Equipped	障害が発生している状態。ディスクドライブはサーバ内に存在していますが、次のいずれかが原因で操作可能性の問題が発生している可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> 不良ブロックなどのハードウェアの問題が原因でディスクドライブを使用できません。 ストレージコントローラへの IPMI リンクに問題が発生しています。
該当なし	Missing	障害が発生している状態。サーバドライブベイにディスクドライブが搭載されていません。
該当なし	Equipped	障害が発生している状態。ディスクドライブはサーバ内に存在していますが、次のいずれかが原因で操作可能性の問題が発生している可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> サーバの電源がオフになっています。 ストレージコントローラファームウェアは、バージョンが不適切なため、ディスクドライブモニタリングをサポートしていません。 サーバでディスクドライブモニタリングがサポートされていません。



(注) [Operability]フィールドは、ディスクが破損した RAID セットの一部分である、または BIOS POST (電源投入時自己診断テスト) が完了していないなどの理由で不正な状態を表示する場合があります。

Cisco UCS Manager GUI で HDD メトリックが更新されない

問題：ハードドライブのホットスワップ、取り外し、または追加の後、更新されたハードディスクドライブ (HDD) メトリックが Cisco UCS Manager GUI に表示されません。

考えられる原因：この問題は、Cisco UCS Manager が、システムブート中のみ HDD メトリックを収集することによって発生する場合があります。システムブートの後にハードドライブの追加または取り外しを行った場合、Cisco UCS Manager GUI では HDD メトリックが更新されません。

手順

サーバをリブートします。

ディスクドライブの障害検出テストに失敗する

問題：サーバディスクドライブで障害 LED が点灯または点滅していますが、Cisco UCS Manager にはディスクドライブ障害が示されません。

考えられる原因：次のうちの 1 つ以上の条件に該当することによって、ディスクドライブの障害検出テストが失敗しました。

- ディスクドライブには障害が発生しておらず、再構築が進行中です。
- ドライブの予測可能な障害
- B200、B230 または B250 ブレードのディスク 2 における、ドライブ障害
- B200、B230 または B250 ブレードのディスク 1 における、ドライブ障害

手順

ステップ 1 エラーが発生したサーバにおける各ディスクドライブの障害 LED をモニタリングします。

ステップ 2 サーバの障害 LED がオレンジなどの何らかの色になっているか、または点滅しており、その理由が明らかでない場合は、エラーが発生したそれぞれのサーバについてテクニカルサポートファイルを作成し、Cisco Technical Assistance Centerにご連絡ください。

Cisco UCS Managerで、使用可能なスロットの合計数よりもサーバ内のディスク数が多く報告される

問題：Cisco UCS Managerで、サーバ内で使用可能なディスク スロットの合計数よりも、サーバのディスク数が多く報告されます。たとえば次のように、Cisco UCS Managerで、ディスク スロットが2つあるサーバに対して3つのディスクが報告されます。

```
RAID Controller 1:
  Local Disk 1:
    Product Name: 73GB 6Gb SAS 15K RPM SFF HDD/hot plug/drive sled mounted
    PID: A03-D073GC2
    Serial: D3B0P99001R9
    Presence: Equipped
  Local Disk 2:
    Product Name:
    Presence: Equipped
    Size (MB): Unknown
  Local Disk 5:
    Product Name: 73GB 6Gb SAS 15K RPM SFF HDD/hot plug/drive sled mounted
    Serial: D3B0P99001R9
    HW Rev: 0
    Size (MB): 70136
```

考えられる原因：この問題は一般的に、Cisco UCS Managerと不正確な情報を報告しているサーバ間の通信障害が原因で発生します。

手順

-
- ステップ1 Cisco UCS ドメインを最新リリースの Cisco UCS ソフトウェアおよびファームウェアにアップグレードします。
 - ステップ2 サーバの稼働を中止する。
 - ステップ3 サーバを再稼働します。
-

Post-Upgrade IQN の問題のトラブルシューティング

重複した IQN の障害のクリアと IQN 発信側名の再設定

問題：Cisco UCS Release 2.0(1) から Release 2.0(2) にアップグレードした後、サービス プロファイルでホストファームウェアパッケージの変更などのアクションを実行しようとする、Cisco UCS Manager によって1つ以上のサービス プロファイルで IQN 関連の障害が発生します。

考えられる原因：単一のサービスプロファイルまたは複数のサービスプロファイルで使用されている1つ以上の iSCSI vNICs に、一意の IQN 発信側名が指定されていません。

手順

-
- ステップ 1** Cisco UCS Manager CLIにログインします。
- ステップ 2** 次のコマンドを実行して、Cisco UCS ドメイン内の IQN のリストを表示します。
UCS-A# **show identity iqn | include iqn name**
- ステップ 3** Cisco UCS PowerToolでスクリプトを実行して、重複する IQN を含む iSCSI vNIC を特定します。
- ステップ 4** IQN 発信側名が登録されていないサービス プロファイルで、発信側 ID をデフォルトの IQN プールに変更するか、または手動で一意的 IQN を割り当てます。
- ステップ 5** 発信側 ID を変更したサービス プロファイルで、次のように発信側割り当てを割り当てた名前またはプールに変更します。
- UCS-A # **scope org org-name**
指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、*org-name* に / と入力します。
 - UCS-A /org # **scope service-profile profile-name**
サービス プロファイルのサービス プロファイル組織モードを開始します。
 - UCS-A/org# **scope vnic-iscsiiscsi_vnic_name**
指定した iSCSI vNIC のモードを開始します。

(注) この vNIC は未登録であり、**show identity iqn** で表示されません。
 - UCS-A /org/service-profile/vnic-iscsi* # **set iscsi-identity {initiator-nameinitiator-name | initiator-pool-nameiqn-pool-name}**
iSCSI 発信側の名前または iSCSI 発信側名の提供元の IQN プール名を指定します。iSCSI 発信側名には最大 223 文字を使用できます。
 - UCS-A /org/service-profile/vnic-iscsi # **commit-buffer**
トランザクションをシステムの設定にコミットします。

(注) 発信側名の変更にはストレージ側の設定も関係しますが、これについてはこのマニュアルでは説明していません。
- ステップ 6** サービス プロファイルに対するアクションを実行して、Cisco UCSデータベースにイニシエータ名を登録します。
たとえば、関連付けされたサーバ上のファームウェアをアップグレードしたり、サービス プロファイルの説明またはラベルを変更できます。
- ステップ 7** 次のコマンドを実行して、IQN 変更が登録されたことを確認します。
UCS-A# **show identity iqn | include iqn name**
-

Cisco UCS PowerToolの取得と重複した IQN スクリプトの実行

Cisco UCS ドメインが iSCSI ブート用に設定されている場合は、Cisco UCS リリース 2.0(1) から Cisco UCS リリース 2.0(2) 以降にアップグレードする前に、複数のサービス プロファイルで使用される iSCSI vNIC がすべて一意のイニシエータ名を持っていることを確認する必要があります。

Cisco UCS PowerTool内で実行するスクリプトを使用して、iSCSI ブート用の Cisco UCS 設定に重複する IQN が含まれているかどうかを確認します。

手順

- ステップ 1** Cisco UCS PowerToolをダウンロードするには、次の手順を実行します。
- お使いの Web ブラウザで、Web サイト <http://developer.cisco.com/web/unifiedcomputing/microsoft> に移動します。
 - [Cisco UCS PowerTool (PowerShell Toolkit) Beta Download]領域まで下にスクロールします。
 - CiscoUcs-PowerTool-0.9.6.0.zip ファイルをダウンロードします。
 - ファイルを解凍し、プロンプトに従って Cisco UCS PowerToolをインストールします。
Cisco UCS PowerToolは、任意の Windows コンピュータにインストールできます。Cisco UCS Managerへのアクセスに使用しているコンピュータにインストールする必要はありません。

- ステップ 2** Cisco UCS PowerToolを起動するには、コマンドラインに次のように入力します。
C:\Program Files (x86)\Cisco\Cisco UCS PowerTool>C:\Windows\System32\windowspowershell\v1.0\powershell.exe -NoExit -ExecutionPolicy RemoteSigned -File .\StartUcs sPS.ps1

例 :

次に、Cisco UCS PowerToolを起動した場合の処理の例を示します。

```
C:\Program Files (x86)\Cisco\Cisco UCS
PowerTool>C:\Windows\System32\windowspowershell\v1.0\powershell.exe
-NoExit -ExecutionPolicy RemoteSigned -File .\StartUcsPS.ps1
Windows PowerShell
Copyright (C) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.
```

- ステップ 3** Cisco UCS PowerToolで、次の手順を実行します。
- 次のように、Cisco UCS Managerに接続します。
PS C:\>Connect-Ucs IP_address
 - 次の例のように、クレデンシャルを求めるプロンプトが表示された場合には、ユーザ名とパスワードを入力します。

```
cmdlet Connect-Ucs at command pipeline position 1
Supply values for the following parameters:
Credential
```

Cisco UCS PowerToolによって、ログイン後の画面に次のような内容が出力されます。

```
Cookie           : 1331303969/2af0afde-6627-415c-b85f-a7cae6233de3
Domains          :
LastUpdateTime   : 3/9/2012 6:20:42 AM
Name             : 209.165.201.15
NoSsl            : False
```

```

NumPendingConfigs      : 0
NumWatchers            : 0
Port                   : 443
Priv                   : {admin, read-only}
RefreshPeriod          : 600
SessionId              : web_49846_A
TransactionInProgress  : False
Ucs                    : ucs-4
Uri                    : https://209.165.201.15
UserName               : admin
VirtualIpv4Address     : 209.165.201.15
Version                : 2.0 (2i) 3.0 (1a)
WatchThreadStatus      : None

```

ステップ 4 Cisco UCS PowerToolで次のスクリプトを実行して、iSCSI 起動設定を検証し、重複した IQN がな
いかどうかを確認します。

```

PS C:\>Get-UcsServiceProfile -type instance | Get-UcsVnicIscsi | ? { $_.InitiatorName -ne "" } | select
Dn,InitiatorName | group InitiatorName | ? { $_.Count -gt 1 } | % { $Obj = New-Object PSObject ; $Obj
| Add-Member NoteProperty Count $_.Count; $Obj | Add-Member NoteProperty InitiatorName $_.Name;
$Obj | Add-Member NoteProperty Dn ($_ | select -exp Group | % { $_.Dn } ); $Obj }

```

Cisco UCS PowerToolによって、次のように、画面に結果が表示されます。

```

Count InitiatorName          Dn
-----
2 iqn.2012-01.cisco.com:s... {org-root/ls-SP_1_6/is...
2 iqn.2012-01.cisco.com:s... {org-root/ls-SP_2_1/is...
2 iqn.2012-01.cisco.com:s... {org-root/ls-SP_2_41/i...
4 iqn.2012-01.cisco.com:s... {org-root/ls-SP_2_7/is...
2 iqn.2012-01.cisco.com:s... {org-root/org-sub1/ls-...
2 iqn.2012-01.cisco.com:s... {org-root/org-sub2/ls-...

```

ステップ 5 (任意) .NET Framework 3.5 Service Pack 1 がインストールされている場合は、次のスクリプト
を使用して GUI で結果を表示できます。

```

PS C:\>Get-UcsServiceProfile -type instance | Get-UcsVnicIscsi | ? { $_.InitiatorName -ne "" } | select
Dn,InitiatorName | group InitiatorName | ? { $_.Count -gt 1 } | % { $Obj = New-Object PSObject ; $Obj
| Add-Member NoteProperty Count $_.Count; $Obj | Add-Member NoteProperty InitiatorName $_.Name;
$Obj | Add-Member NoteProperty Dn ($_ | select -exp Group | % { $_.Dn } ); $Obj } | ogv

```

ステップ 6 次のように、Cisco UCS Managerから切断します。

```

PS C:\>Disconnect-Ucs

```

次の作業

Cisco UCS ドメインの複数のサービス プロファイルで IQN が重複している場合は、Cisco UCS リ
リース 2.1 以降にアップグレードする前に、Cisco UCS Manager で iSCSI vNIC を再設定し、それぞ
れが一意的な IQN を持つようにします。

アップグレード前に、Cisco UCS ドメインのサービス プロファイル全体においてすべての iSCSI
vNICが一意的であることを確認しなかった場合は、IQNの重複を警告するために、Cisco UCS Manager
で iSCSI vNIC に関するエラーが発生します。また、サービス プロファイル内に重複した IQN 名

(同じ名前が両方の iSCSI vNIC で使用されている場合など) がないことを確認しなかった場合は、Cisco UCSによってサービス プロファイルが再設定され、1つの IQN を持つようになります。この障害をクリアして重複した IQN を再設定する方法の詳細については、『[Cisco UCS B-Series Troubleshooting Guide](#)』を参照してください。

更新中のサービス プロファイル テンプレートにバインドされているサービス プロファイルの IQN 発信側名の再設定

問題：Cisco UCS Release 2.0(1) から Release 2.0(2) にアップグレードした後、Cisco UCS Manager によって 1 つ以上のサービス プロファイルで IQN 関連の障害が発生し、サービス プロファイル上の重複した IQN 発信側名を再設定できません。

考えられる原因：一意の IQN 発信側名を持っていないサービス プロファイルが、更新中のサービス プロファイル テンプレートに基づいています。

手順

- ステップ 1 Cisco UCS Manager CLI にログインします。
- ステップ 2 `UCS-A # scope org org-name`
指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、`org-name` に `/` と入力します。
- ステップ 3 `UCS-A /org # scope service-profile profile-name`
サービス プロファイルのサービス プロファイル組織モードを開始します。
- ステップ 4 `UCS-A/org# scope vnic-iscsi iscsi_vnic1_name`
サービス プロファイルに割り当てられている最初の iSCSI vNIC のモードを開始します。
- ステップ 5 `UCS-A /org/service-profile/vnic-iscsi* # set iscsi-identity {initiator-name initiator-name | initiator-pool-name iqn-pool-name}`
iSCSI 発信側の名前または iSCSI 発信側名の提供元の IQN プール名を指定します。iSCSI 発信側名には最大 223 文字を使用できます。
- ステップ 6 `UCS-A /org/service-profile/vnic-iscsi* # exit`
指定した iSCSI vNIC のモードを終了します。
- ステップ 7 `UCS-A/org# scope vnic-iscsi iscsi_vnic2_name`
サービス プロファイルに割り当てられている 2 番目の iSCSI vNIC のモードを開始します。
- ステップ 8 `UCS-A /org/service-profile/vnic-iscsi* # set iscsi-identity {initiator-name initiator-name | initiator-pool-name iqn-pool-name}`
iSCSI 発信側の名前または iSCSI 発信側名の提供元の IQN プール名を指定します。iSCSI 発信側名には最大 223 文字を使用できます。
- ステップ 9 `UCS-A /org/service-profile/vnic-iscsi # commit-buffer`
トランザクションをシステムの設定にコミットします。

- ステップ 10** Cisco UCS Manager GUIで、更新中のサービス プロファイル テンプレートからサービス プロファイルをアンバインドします。

Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録に関する問題のトラブルシューティング

...

日時の不一致が、登録に関する最も一般的な問題です。

Cisco UCS Centralと Cisco UCS ドメイン の間の日時が同期していることを確認するには、次の事柄を行います。

- Cisco UCS Centralと Cisco UCS ドメイン で有効な NTP 設定が行われていることを確認します。
- Cisco UCS Centralが、Cisco UCS ドメイン の時間より遅れて実行していることを確認します。これにより、Cisco UCS Centralによって発行された証明書の開始日が将来にならないように確実に設定されます。
- 証明書が有効でない場合は、次のコマンドを使用して Cisco UCS Centralからデフォルトのキーリング証明書を再生成します。

```
UCSC # connect policy-mgr
UCSC (policy-mgr) # scope org
UCSC (policy-mgr) /org# scope device-profile
UCSC (policy-mgr) /org/device-profile # scope security
UCSC (policy-mgr) /org/device-profile/security # scope keyring default
UCSC (policy-mgr) /org/device-profile/security/keyring* # set regenerate yes
UCSC (policy-mgr) /org/device-profile/security/keyring* #commit-buffer
```

- 設定を修正した後に問題が発生した場合は、Cisco UCS Managerの共有秘密の更新が必要な可能性があります。

```
UCSM# scope system
UCSM /system # scope control-ep policy
UCSM /system/control-ep # set shared-secret
Shared Secret for Registration:
UCSM /system/control-ep* # commit-buffer
```



重要 Cisco TAC に連絡する前に、次のことを確認してください。

- Cisco UCS Centralと、登録されている Cisco UCS ドメイン の日時が同期していること。
- Cisco UCS ドメインが一時停止になっていたり、表示状態になっていないこと。
- ドメインの登録ステータスが [Registered] になっていること。